

第106回
品質管理シンポジウム



お客様第一を追求する 新価値創造の強化

—日本流の強みを活かした新価値創造のさらなる挑戦—



株式会社
プリンスホテル
取締役 代表執行役 CEO 兼
取締役会長
津谷 正明 氏

カゴメ(株)
代表取締役社長
寺田 直行 氏

株式会社
日立製作所
取締役 代表執行役
執行役社長兼 CEO
東原 敏昭 氏

株式会社
盛之助
代表取締役社長
川口 盛之助 氏

トヨタ自動車(株)
専務役員
佐藤 和弘 氏

東レ(株)
代表取締役社長
日覺 昭廣 氏

開催期日：2018年5月31日(木)～6月2日(土)

会 場：大磯プリンスホテル

主 催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後 援：一般社団法人 日本品質管理学会

趣旨



佐藤 和弘氏

トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト推進本部長
専務役員
第106回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

現在、企業を取り巻く環境が経験のない早さで変化する中で、長年培ってきた日本流の強みを活かした取組みを追求して「お客様になくてはならない魅力ある製品やサービス」を提供し成長を続けている多くの企業があります。

日本企業が培ってきた取組みの特徴は、お客様を第一に考えて、強みを最大に活かした「他では真似できないオンリーワンの技術でモノやサービスの革新」を続ける取組みや、「正確で緻密なモノとシステムを組合せた質の高いサービス」を提供する企業、或いは「日本流の感性を活かしたおもてなしのサービスを人から人へ提供するネットワークを構築する」など、様々なお客様ニーズに応えるために自らの強みを最大化し、「お客様の期待を超える価値」を産むために、自ら進化することで他の追随を許さず、選ばれ続けています。

一方で、人とモノや社会が繋がっていく大きな変化に対応し、お客様の期待を超える価値を創造していくためには、これまでの“高品質なモノづくりやサービスの改善”にとどまらず、変化の中で新たに生まれる潜在的なニーズを適確に捉えた「お客様の使い方からアフターサービスまで考え抜いたもっといいモノと、お客様の困りごとへ応える新たなサービス」をトータルで提供する新価値創造の取組みが

一層必要となります。

こうした新たな価値創造は、お客様が感じる変化や生活の困り事を思いやり、ビジネスの課題を適確に理解して、潜在的ニーズの変化に先駆ける「もっといいモノとサービスを俯瞰した新価値を、スピーディーに創出」することが重要であり、日本企業が長年努力してきた「お客様第一」の原点を徹底して追求し、日本人特有の感性と、地道に粘り強く工夫を積み重ねる努力を最大限に活かして、モノとサービスの価値創造へ全員の知恵を結集することで実現することができます。

この取組みをさらに強化して「世界のお客様の笑顔のために未来を拓く新価値創造」へ勇気と自信を持ち挑戦するアプローチについて皆さんと一緒に考えていきます。

今回はお客様第一の実践をさらに強化して、一人ひとりが知恵と工夫を凝らした新たな価値を創造するために必要となる「守り、継続する強み」と「変えていくこと」を今一度整理し、変化する潜在的な顧客ニーズの把握から、“もっといいモノとサービスの創造”を総力で実践し、この取組みを通じた持続的な企業価値向上を牽引するためのリーダーシップと取組みの在り方について皆さんと一緒に議論します。

プログラム

開催期日：2018年5月31日(木)～6月2日(土)
会場：大磯プリンスホテル

月日	時間	科目	講演者
5/31 (木)	19:30~20:40	<特別講演> 素材には社会を本質的に変える力がある ～東レの研究・技術開発と実践事例～	日覺 昭廣氏 東レ(株) 代表取締役社長
	20:40~21:00	質疑・応答	
	21:00~22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00~23:00	談話室(参加自由)	
6/1 (金)	8:30~8:40	主催者挨拶	(一財)日本科学技術連盟 理事長 佐々木 真一
	8:40~10:10	<基調講演> メガトレンドと日本 日本の強みを活かした新価値創造	川口 盛之助氏 (株)盛之助 代表取締役社長
	10:10~10:50	<講演1> お客様の視点に立った“トヨタのアフターサービス”の挑戦	佐藤 和弘氏 トヨタ自動車(株) 専務役員 ※106QCS主担当組織委員
	10:50~11:00	質疑・応答	
	11:00~11:10	休憩	
	11:10~12:10	<講演2> 食を通じて社会問題の解決に取り組み、持続的に成長できる強い企業になる	寺田 直行氏 カゴメ(株) 代表取締役社長
	12:10~12:20	質疑・応答	
	12:20~13:10	昼食・休憩	
	13:10~14:10	<講演3> お客さまとの協創によるイノベーション	東原 敏昭氏 (株)日立製作所 取締役 代表執行役 執行役社長 兼 CEO
	14:10~14:20	質疑・応答	
	14:20~14:30	休憩	
	14:30~15:30	<講演4> 「真のグローバル企業」に向けて	津谷 正明氏 (株)ブリヂストン 取締役 代表執行役CEO 兼 取締役会長
	15:30~15:40	質疑・応答	
	15:40~15:50	グループ討論の主旨説明	佐藤 和弘氏
15:50~16:15	休憩・移動		
16:15~18:15	グループ討論(1)		
18:15~19:15	夕食(立食)		
19:20~21:00	グループ討論(2)		
21:00~23:00	談話室(参加自由)		
6/2 (土)	8:30~9:50	グループ討論報告(10分×7班※予備10分)	オーナー：佐藤 和弘氏 司会：加藤 雄一郎氏 名古屋工業大学 産学官金連携機構 特任教授 報告：各班リーダー
	9:50~10:05	休憩	
	10:05~11:35	総合討論	
	11:35~11:50	第106回 品質管理シンポジウム まとめ	佐藤 和弘氏
	11:50~11:55	次回(107回)品質管理シンポジウム案内	猪原 正守氏 大阪電気通信大学 教授 107QCS主担当組織委員
11:55~	昼食・解散		

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。
※組織名・役職は、2018年3月9日時点の表記になっております。

第106回 品質管理シンポジウム 講演概要

5/31 (木) 特別講演

素材には社会を本質的に変える力がある ～東レの研究・技術開発と実践事例～

日覺 昭廣氏 東レ(株) 代表取締役社長

あらゆる製品のもとになる素材には、社会を本質的に変える力があります。東レグループは、「私たちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という経営理念に基づき、私たちにしか成し得ない、これまで世に無かった価値を持つ素材を提供することで、当社の社会的責任を果たしていきます。

「時流に迎合せず、本質を把握して、長期ビジョンをもって、時代に適合する」という考え方で、企業は社会の公器であるという考えのもと、長期視点での研究・技術開発、人を基本とする経営、現場主義を徹底し、日本的経営の良さを強みとしてグローバルに展開してきました。今回はこれら東レグループの取り組みと実践事例についてご紹介します。



6/1 (金) 基調講演

メガトレンドと日本 日本の強みを活かした新価値創造

川口 盛之助氏 (株)盛之助 代表取締役社長

かつてない速さでビジネスを取り巻く環境が変化しています。IoTやAIなど情報技術の進歩はとどまる所を知らず、第4次産業革命やフィンテック金融革命などを巻き起こすと言われていています。これらの変化は政治体制や社会構造にまで波及し、シェアリングエコノミーやベーシックインカム、リキッドデモクラシーやデータ資本主義など様々な領域で変革が生じるとされています。いつの時代にも環境は変化しており、若者はそれをエキサイティングに感じ、老人は脅威と捉えますが、ダグラス・アダムズの法則によればその分水嶺は35歳にあるとされます。巷にぎわすパスワードにいちいち深くことなく、大きなメガトレンドを見通すことが肝要です。本講演では、技術と産業の視点での最も重要な二つの潮流について考えます。技術はその生来の宿命として人間の心身に対しての更なる肉薄を挑み続けます。産業もその成熟の必然としてメタサービス化の道を究めることとなります。もう一点、日本らしさと商品機能について解説を加えます。グローバル化や情報化が進むほどに、商品の仕様は最大公約数的に似通うこととなり、往々にしてコストを競うレッドオーシャンにはまり込みます。重要なことは、自分らしさに対する理解であると考えます。日本らしさから、自社らしさ、ひいては自分らしさを明示し価値を変えるための手順を紹介します。



6/1 (金) 講演 1

お客様の視点に立った “トヨタのアフターサービス”の挑戦

佐藤 和弘氏 トヨタ自動車(株) 専務役員

トヨタ自動車は創業以来、お客様を第一に“高品質なクルマづくり”を通じてお客様や社会に貢献することを目指しています。そして、もっといいクルマの提供に留まらず、世界中の代理店、販売店と共に、クルマの使用期間で不可欠な整備、修理等、“質の高いアフターサービスをライフステージ全体で提供”するために、同じ価値観として3S精神（正確、親切、信頼）を共有し、常にお客様の視点に立ち、サービスの質向上や、サービスエンジニア育成等に継続的に取り組んでいます。今回は、トヨタの強みとして長年大切に培い進化を続けるトヨタのアフターサービスの取り組み事例を共有し、今後の大きな変化の中で、もっといいクルマとサービスの強みを最大に活かした“お客様第一を追求する新価値創造”へのトヨタの挑戦について紹介します。



6/1 (金) 講演 2

食を通じて社会問題の解決に取り組み、 持続的に成長できる強い企業になる

寺田 直行氏 カゴメ(株) 代表取締役社長

カゴメのはじまりは農家であり、1899年にトマトの発芽とともに創業しました。以来、トマトなど自然の恵みがもつ価値を活かした商品の開発と提供を通じて、人々の健康的な食生活の実現に貢献してきました。その過程においては、「畑は第一の工場」といったものづくりの哲学をもって安全・安心な商品を提供できるよう取り組んでまいりました。2016年にスタートした中期経営計画では、持続的に成長できる強い企業になるために、「収益構造の改革」と「働き方の改革」に取り組み、同時に社会問題の解決に貢献するための「トマトの会社から野菜の会社へ」等の長期ビジョンを掲げ、「ニッポンの野菜不足をゼロにする」ことを目指して活動しています。その実現を支えるため、昨年新たに策定した「品質・環境方針」も含めてお話しいたします。

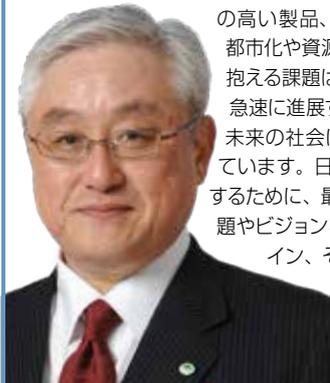


6/1 (金) 講演 3

お客さまとの協創によるイノベーション

東原 敏昭氏 (株)日立製作所 取締役 代表執行役 執行役社長 兼 CEO

鉱山の機械修理部門から創業した日立は、2020年のオリンピックイヤーに創業110年を迎えようとしています。私たちは、創業以来「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念の下、社会課題の解決に向け、質の高い製品、サービスの提供に努めてきました。現在、都市化や資源不足、少子高齢化など、世界の国や地域が抱える課題はますます複雑化しています。このような中、急速に進展するデジタル技術により、新たな価値を生み、未来の社会に役立てようという動きが世界各地で始まっています。日立は、お客さまと一緒に新たな価値を創出するために、最先端のデジタル技術を用いてお客さまの課題やビジョンを共有、見える化し、ビジネスモデルをデザイン、そして検証することを通じて具現化するプロセスを体系化し、お客さまとともに活用しています。本講演では、お客さまとの協創により新たな価値を生み出す日立の取り組みを、具体的事例を含めてご紹介します。



6/1 (金) 講演 4

「真のグローバル企業」に向けて

津谷 正明氏 (株)ブリヂストン 取締役 代表執行役CEO 兼 取締役会長

今年は社是「最高の品質で社会に貢献」の制定とデミング賞受賞から丁度50年の節目に当たり、グローバル化に大きな一歩を踏み出したファイアストーン買収から30年の節目の年です。事業環境はあらゆる面で大転換期にあり、真に激動の時代にあります。原典に戻り、企業理念を事業活動の基盤とし、経営の最終目標である「真のグローバル企業」、「業界において全てに『断トツ』」に向け、経営改革を継続しております。本公演では、重点課題として取り組んでいる以下の3点を含めて、当社の取り組みをご紹介します。

1. グローバル企業文化の育成
2. グローバル経営人材の育成
3. グローバル経営体制の整備



グループ討論

テーマ・趣旨・論点

「お客様第一を追求する新価値創造を迅速に展開するための経営トップのリーダーシップのあり方」

■リーダー：山田 秀（慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 教授）・佐藤 真人（㈱小松製作所 コマツウェイ総合研修センタ 所長）

第1班

趣旨 激しく変化する経営環境の中で持続的成長をするには、お客様第一を具現化するため、潜在ニーズを探査し、モノとサービスを総合的に提供する新たな価値創造が必要になる。この具現化には、長年培ってきた自社固有の強み、日本流経営の強みを最大限に生かしつつ新たな領域へ参入することを迅速に行う必要がある。第1班では、これらのための経営トップのリーダーシップのあり方を議論します。その際、同様なテーマを取り上げた前回（105回）GD第1班の成果をレビューし議論を深め、次に、「迅速さ」、「未知の領域における品質保証」のためのリーダーシップに焦点を当て議論します。

論点

- ① 新たな新価値提供のために重要となる経営トップのリーダーシップについて、第105回QCS（2017年11月開催）GD第1班の成果をレビューしたうえで議論を深める。
- ② 新たな顧客価値提供に向けたリーダーシップの中で、迅速な実現について焦点を絞り、これに必要なリーダーシップについて議論する。
- ③ 新価値創造には新たな事業領域に踏み込む場合が多くなるので、その未知の領域における品質保証のためのリーダーシップについて議論する。

「“活かすべき日本流マネジメントの強み”と新価値創造へのアプローチ」

■リーダー：棟近 雅彦（早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授）・吉田 潤史（パナソニック㈱ 品質・環境本部 安全・品質部 部長）

第2班

趣旨 時代や経営環境の大きな変化の中で、顧客ニーズの変化に先駆けた新たな価値創造への変革が重要となります。一方で、過去から現在に至るまで、日本企業が様々な変化や危機を乗り越え身に付けてきた“日本流、日本ならではのマネジメントの強み”という財産があります。この強みを明らかにして整理し、新たな価値創造への変革へどのように活かしていくべきか、効果的アプローチのあり方を考えます。

論点

- ① これまで培ってきた“日本流、日本企業ならではのマネジメントの強み”は何か。特に今回の講演者の企業における特長は何か。
- ② これらの強みは、新価値創造のどのような側面において重要か。
- ③ これらの強みを活かすには、新価値創造のためにどのようなアプローチをとることが有効か。新たに行うべきことは何か。

「新価値創造における人財面から見た自社の弱み・強みの認識とその克服・活用」

■リーダー：光藤 義郎（文化学園大学 特任教授）・永谷 康一（㈱デンソー 安全環境品質本部 品質管理部長 理事）

第3班

趣旨 お客様の期待を超える新しい価値をお客様と共に創造し、お客様と長期にわたるWin-Winの関係を構築していくには、自社がもつ弱みを克服しつつ、強みを活かしていくことが求められ、中でも組織要素としての人財がキーを握ると言われています。そこで第3班では、新価値創造を進めるにあたり、今後の環境変化も加味した自社の弱み・強みを人財（特に日本人として）の側面に絞って認識・特定し、その克服・強化・活用の方法を実例を交えて議論していきます。

論点

- ① 今後の環境変化も踏まえた新価値創造における自社人財（特に日本人として）の弱み・強みの特定。
- ② それらの弱みをどう克服し、強みをどう育成・強化・活用していくか。

「新たな価値創造における“日本企業の弱点”と対応のアプローチ」

■リーダー：加藤 雄一郎（名古屋工業大学 産学官官連携機構 特任教授）・鈴木 浩佳（トヨタ自動車㈱ 業務品質改善部 部長）

第4班

趣旨 経験のないスピードと規模のパラダイムチェンジに直面する日本企業が認識しておくべき“日本企業の弱点”として、実際の取組みの中で直面している（或いは今後想定される）課題を整理し、今後の新価値創造で何を守り更に強化し、何を变えていくか、勝ち残るために、弱点・課題をどう克服していくことが重要となるか、対応と効果的アプローチを考えます。

論点

- ① 経験のない規模とスピードの変化へ対応する新価値創造を実現する上で“日本企業の弱点”は何か？
- ② 自ら変革し新価値創造により勝ち残るため、“弱点を克服するアプローチや方策の在り方”を考察する。
- ③ 事例共有：メンバーで既にブレークスルーに取組んでいる事例や、アプローチ、直面する課題を共有する。

「新価値を創造する“革新”を行うための課題とアプローチの在り方」

■リーダー：永田 靖（早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授）・内田 雅文（コニカミノルタ㈱ 執行役）

第5班

趣旨 経験のない変化の中でこれまでにない新しい顧客価値をスピーディに産み出す“革新”が求められています。かつて日本企業は日本人ならではの知恵と工夫による革新を強みにして世界市場に挑戦してきました。今後、一層高度化し、複雑化するパラダイムシフトの中で、日本企業が世界に先駆ける“革新”を実践する上での課題を整理し、日本ならではの強みを活かす“革新”へのアプローチの在り方を考えます。

論点

- ① メンバーもしくは所属する企業で既に「新しい顧客価値を創造する“革新”」に取り組んでいる事例やアプローチ、直面する課題を共有する。
- ② デジタル技術やビジネスモデルの大きな変化の中で、これまでにない新しい顧客価値をスピーディに産み出す“革新”を実践する際の課題は何か。
- ③ 自社ならではの強みを活かす“革新”のために必要な取組みやアプローチとは何か。

「新価値創造での日本の企業の強みと海外企業の強みの融合（ベストバランス）の在り方」

■リーダー：森田 浩（大阪大学 大学院情報科学研究科 教授）・吉井 利彰（ダイキン工業㈱ 品質管理部 部長）

第6班

趣旨 グローバルな事業展開で、迅速かつ効果的に新価値創造の改革を推進するために、“日本企業の強み”を活かし、同時に“海外企業の強み”を融合（ベストバランス）していくことが必要となります。提携、連携、M&Aなどによる新価値創造の機能的強化を効果的に進める上で、日本企業の強みの活かし方や、人材の交流・育成、価値創造の取組みの課題と対応の在り方を考えます。

論点

- ① 企業間の提携やM&Aにより新価値創造の機能強化を円滑かつ迅速に進めるために、日本企業の強みと海外企業の強みをどのようにベストバランスさせるか、課題を整理し、効果的なアプローチを考える。
- ② 事例共有：GDメンバーで①の具体的な事例を共有し、更に効果的な取組みやアプローチを考える。

「お客様第一をさらに追求する価値創造活動のグローバル展開」

■リーダー：西 敏明（岡山商科大学 経営学部 経営学科 教授）・井上 祥（㈱ブリヂストン 品質システム本部長）

第7班

趣旨 地域、国毎に異なる潜在のお客様ニーズへ、日本ならではの強みを最大に活かしながら各地域で適確にお客様の期待に応えていくために、地域組織・機能の自立化や人材の強化が重要となります。地域で異なる顧客ニーズを把握し、地域のお客様に密着した新価値を創造する取り組みの視点から、本社と地域機能の連携や分担、或いは人材育成、コミュニケーションの課題とグローバル展開の在り方を考えます。

論点

- ① 日本の強みと地域の強みを活かす価値創造活動の展開の課題はどのようなものか。
- ② 日本と地域リーダーのコミュニケーションの在り方や、効果的な各地域リーダー人材の育成はどう推進していけばよいか。
- ③ 組織での中長期戦略の展開と、短時間で迅速な意思決定を行う場合の課題と効果的なアプローチはどうすればよいか。

参加要領

開催日時 **2018年5月31日(木) 19:30~6月2日(土) 12:00**
(5月31日受付開始 17:00~、夕食 18:00~)

会場 **大磯プリンスホテル**

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷546
TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

参加対象 企業の役員、上級管理職の方々

※是非、今回のシンポジウムテーマに深い関連のある、
経営企画・商品企画・開発部門の方々のご参加について、
ご検討をお願いします。

参加費

●QCS企業会員

・ トップ枠(会長もしくは社長)、通常枠 各1名無料

・ 3人目から43,200円/1名

※ トップ(会長もしくは社長)が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみとなります。

●QCS団体会員

・ 通常枠 1名無料

・ 2人目から43,200円/1名

※食事代(5月31日夕、6月1日朝・昼・夕、6月2日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。

●申込期日 第一次〆切を4月23日(月)とさせていただきます。

今回のシンポジウムは、多くの会員企業様にご参加いただくことを目的に、第一次〆切までは、1社2名(トップ枠、通常枠の無料枠含む)までとさせていただきます。第一次〆切後は、先着順でお申込を受け付けます。会場定員に達し次第、申込を締切らせていただきます。



大磯プリンスホテル

シンポジウム申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

<http://www.juse.jp/qcs/>

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)



第105回
マツダ(株)
代表取締役会長
金井 誠太氏



第104回
(株)SUBARU
代表取締役社長
吉永 泰之氏



第103回
トヨタ自動車(株)
取締役社長
豊田 章男氏



第101回
TOTO(株)
代表取締役副社長執行役員
猿渡 辰彦氏



第101回
エリーパワー(株)
代表取締役社長
吉田 博一氏



第100回
トヨタ自動車(株)
名誉会長
豊田 章一郎氏

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第106回品質管理シンポジウム主担当組織委員

(組織名・役職は2018年3月9日時点の表記になっております)



猪原 正守
大阪電気通信大学 教授



大橋 徹二
(株)小松製作所
代表取締役社長 兼 CEO



◎佐藤 和弘
トヨタ自動車(株) 専務役員



鈴木 和幸
電気通信大学名誉教授



津田 純嗣
(株)安川電機
代表取締役会長



中條 武志
中央大学 教授

【ご確認ください!】第106回品質管理シンポジウム参加予定の方へ

今回のシンポジウムでは、より効果的な議論を行うため、参加いただく皆様と以下の通り用語（言葉）の定義と考え方を共有した上で進めて参ります。

- 品質・・・顧客及び社会のニーズを満たす度合い
- 品質保証・・・顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
- サービス・ドミナント・ロジック・・・価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる
※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
- グッズ・ドミナント・ロジック・・・価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください!

- メリット1 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。
- メリット2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。
- メリット3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員：1口につき年額187,920円（消費税含む） 団体会員：1口につき年額108,000円（消費税含む）

入会いただきますと

- 企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）を確保できます。
- 団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。
- 無料参加枠以外の方は特別価格（43,200円）でご参加いただけます。
- 本シンポジウムの発表報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2018年3月9日現在、50音順 113社

1 (株)アーレスティ	24 (株)小松製作所	46 ダイヤモンド電機(株)	69 新潟ダイヤモンド電子(株)	92 フタバ産業(株)
2 アイシン・エイ・ダブリュ(株)	25 サラヤ(株)	47 大和リース(株)	70 (株)ニコン	93 (株)ブリチストン
3 アイシン精機(株)	26 澤藤電機(株)	48 (株)竹中工務店	71 日華化学(株)	94 べんてる(株)
4 愛知製鋼(株)	27 サンデンシステムエンジニアリング(株)	49 中国化薬(株)	72 (株)日科技連出版社	95 (株)保志
5 アイホン(株)	28 サンデン物流(株)	50 (株)千代田グラピヤ	73 日産自動車(株)	96 本田技研工業(株)
6 (株)アドヴィックス	29 サンデンホールディングス(株)	51 テックスエンジンリユース(株)	74 日産車体(株)	97 前田建設工業(株)
7 (株)イシダ	30 サンワテック(株)	52 (株)デンソー	75 日本商工会議所	98 (株)前田製作所
8 NECフィールディング(株)	31 (株)GSユアサ	53 東芝機械(株)	76 日本電気(株)	99 マツダ(株)
9 NECプラットフォームズ(株)	32 (株)ジーシー	54 東レ(株)	77 (株)日本科学技術研修所	100 (株)マルヤスエンジニアリング
10 (株)FTS	33 (株)ジーシーデンタルプロダクツ	55 TOTO(株)	78 日本特殊陶業(株)	101 丸和電子化学(株)
11 (株)MCシステムズ	34 (株)ジェイテクト	56 トクラス(株)	79 パナソニック(株)	102 三島食品(株)
12 エリーパワー(株)	35 清水建設(株)	57 (一社)富山県経営者協会	80 パナソニックヘルスケア(株)	103 (株)村田製作所
13 大塚化学(株)	36 JUKI(株)	58 豊田合成(株)	81 パナック(株)	104 (株)メイドー
14 岡谷電機産業(株)	37 シロキ工業(株)	59 トヨタ自動車(株)	82 (株)羽生田製作所	105 名北工業(株)
15 (株)オティックス	38 (株)SUBARU	60 トヨタ自動車九州(株)	83 パラマウントベッド(株)	106 安川エンジニアリング(株)
16 オムロン(株)	39 住友理工(株)	61 トヨタ自動車東日本(株)	84 ビアメカニクス(株)	107 (株)安川電機
17 鹿島建設(株)	40 積水化学工業(株)	62 (株)豊田自動織機	85 日立オートモティブシステムズ(株)	108 (株)ユニバンス
18 関西電力(株)	41 (株)セキソー	63 トヨタ車体(株)	86 日野自動車(株)	109 (株)リコー
19 (株)キャタラー	42 ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)	64 豊田鉄工(株)	87 ヒロセ電機(株)	110 リコーエレメックス(株)
20 光洋サーモシステム(株)	43 ダイキン工業(株)	65 豊田バンモップス(株)	88 (株)フジクラ	111 リコーテクノロジーズ(株)
21 コーセル(株)	44 ダイハツ工業(株)	66 トヨタ紡織(株)	89 富士ゼロックス(株)	112 (株)良品計画
22 小島プレス工業(株)	45 大豊精機(株)	67 トヨタホーム(株)	90 富士電機(株)	113 ローム(株)
23 コニカミノルタ(株)		68 長津工業(株)	91 フジミ工研(株)	

問い合わせ

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当（安随／池田／菅田／浜井）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL : 03-5378-1215 FAX : 03-5378-9842

E-mail : tqmsemi@juse.or.jp